



新幹線筑後船小屋駅前に停車中の西鉄バス

## 船小屋柳川バス路線の 乗客数は

矢加部 茂晴 議員

**答** 現在のところ厳しい状況になっている

**問** 筑後船小屋駅の利便性向上や周辺観光の活性化を目指し、筑後・みやま・柳川3市が西鉄側に働きかけ、JR筑後船小屋駅と西鉄柳川駅を結ぶバス路線が新設された。乗客数が当初見込みより少ないのではないか。

**市長** 現在厳しい状況だが、今後筑後広域公園の整備が進み、あわせて筑後七国の広域連合を図ることで、筑後船小屋駅を中心とする交流人口が増加し、バス利用者も増加していくと考えている。  
**商工観光課長** 9月末までの総利用者数が7,749人、1日38・2人、1便2・1人。当初見込みで5人程は乗っていただけだと思っていたので、厳しい数字になっている。

**赤字補てんが予想される中で  
現状の認識は**

**市長** 市長は今年3月議会です、平均乗車率2・4人を下回った場合、3市で年間約500万円の赤字補てんをせざるを得ないだろうと答弁されている。実際に赤字補てんが予想される中で、現状をどう見ているのか。  
**市長** 今の時点では非常に利用しにくいダイヤになっている。柳川市・みやま市と一緒に、利用者の確保についての取り組みを強化しなければならぬと思っている。

## 特定健診と住民検診は

北島 一雄 議員

**答** さらなる市民への周知徹底や未受診者対策に取組みたい

**問** 特定健診では平成24年度の受診率65%の目標値を達成しなければ、市は国保への支払増額が科せられるが。

**市長** 国保の40歳から74歳の被保険者8,400人を対象に実施している。目標達成のため、未受診者の戸別訪問などさらなる市民への周知徹底等対策に取り組みたい。  
**市民課長** 平成22年度の目標値49%に対して受診率は33・2%。平成24年度の目標値が達成不可能な場合、22年度の国民健康保険の後期高齢者医療保険で言えば、最大5,150万円増額となる。

**歯周疾患検診や  
妊婦歯科検診の  
実施が必要では**

今後どう減額、調整されるか注視していきたい。

**問** 定期健診として歯周疾患検診や妊婦歯科検診の実施が必要ではないか。

**健康づくり課長** 福岡県内で歯周疾患検診は十数団体、妊婦歯科検診は3団体が実施しており、必要性は十分認識している。今まで、がん検診の受診率向上に力を注いできたので、歯科検診実施には至っていない。  
**鬼丸副市長** 歯周疾患の重要性には思い入れがある。今後十分に精査して対応ができる分はしていきたい。



歯周疾患検診・妊婦歯科検診は必要